

## 平成 29 年度 第 1 回熊本市公共交通協議会 議事録

### I 日時等

1. 日 時：平成 29 年 5 月 30 日（火）午前 10 時～午前 11 時 30 分
2. 場 所：熊本市自転車駐車場 8 階 大会議室

### II 主な内容

#### 1. 開会

#### 2. 委員紹介及び委嘱状交付

#### 3. 会長挨拶

（会長）組織改変や人事異動等で新たな体制で臨むことになる。また、熊本県や周辺の自治体には、地域連携をしていかなければならないので、積極的な参加をお願いします。

昨年の熊本地震では、公共交通も厳しい状況だったが、かなり早く復旧したことで、市民の期待に応えられたと思うが、復興はまだ厳しい状況。この状況下で、公共交通の役割が増してきているが、人材不足により新たな問題が生じており、運行においても大きな問題になっている。

本年度も重要な課題に取り組んでいかなければならない。積極的な議論・円滑な運営が、熊本市の公共交通の発展につながるような機会にしたい。

#### 4. 議事及び報告

（1）熊本市公共交通協議会規則等の変更について

（2）平成 29 年度熊本市公共交通協議会の体制について

事務局より「資料 1：「熊本市公共交通協議会規則」「熊本市公共交通協議会運営要綱」「熊本市公共交通協議会の公募委員の選考に関する要綱」において、組織改変のため「交通政策総室」から「交通政策課」に変更する点を説明報告。資料 2「平成 29 年度「熊本市公共交通協議会」専門部会委員（案）」について、前任委員所属の部会に、後任委員を充てることを説明。→ 各委員了承する。

（3）平成 29 年度の事業について

①基幹公共交通軸の機能強化について

・事務局より「資料 3：基幹公共交通軸の機能強化について」を説明

（会長）この点について、意見はないか。→ 意見なし

（会長）交通センター新ターミナルや熊本駅前のバスターミナルについて、いま時点での全体像を話して欲しい。

（事務局）交通センター新ターミナルの絵姿等については、再開発事業者で調整中であり、時期が来たら部会で報告したい。熊本駅前のバスターミナルについては、熊本駅周辺整

備事務所で事業計画を進めており、バス事業者とも協議しているところ。整った時点で部会に報告したい。両事業とも、夏ごろを目処に報告したい。

## ②バス路線網再編について

- ・事務局より「資料3：バス路線網再編について」を説明

(会長) 事業者は、乗務員不足の厳しい状況の中、ダイヤ改正等で利便性を図ってきた。構造的、慢性的な人手不足に加えて、震災特需の複合的な要因もあり、各社苦勞している。ゾーンシステムにおいても、国との調整等の問題があると報告があった。この点について何か意見はないか。

(委員) 今後の検討課題になっている国との協議について、説明して欲しい。

(事務局) 乗務員不足に対応した運行時間の設定調整をしなければならない中で、実施計画策定時の区域の設定や計画期間の制約があるが、どこまでできるのかを詳細に国と調整したい。また、バス事業者の状況と計画の内容を整理し、関係市町とも協議していきたい。

(会長) 事業者から意見はないか。

(委員) 地震後、高速道路が通れなくなり、その車が国道3号に流れ込み、大きな渋滞が発生した。これが3～4か月続いた。まだ渋滞の解消には至っておらず、定時性が確保できていない。減便の影響もあるが、ダイヤの信頼性という面で利用者が減ってきている。また、乗務員不足により、休みが取れない状況の上、新規採用もない。これが進んでいくと、運行ダイヤを減らさなければならなくなる状況にある。

(委員) バスの利用者が少なくなり、経営状況も厳しく、待遇改善も難しくなるというような悪循環があって、さらに追い討ちをかけて熊本地震が起きた。別に利用増対策などを検討する必要があるのではないか。部会の中でそのようなことを掘り下げてから、再編の議論ができるのではないか。

(委員) バスは、我々が思っている以上に、大変な状況で運行されている。検討する中に、乗車率を上げるにはという部会があってもいいのではないか。例えば、運行途中も楽しいようなイベントを考えてはどうか。利用を実感してもらえなければ、この場でいくら議論してもどうしようもない。

(会長) 利用者を増やすためのイベントはあまり考えていなかったが、行政も事業者も含めて、乗ってみたら楽しいというイベントみたいなのも一案ではないか。

(委員) 今は復興特需により乗務員不足になっているという大変な状況だが、復興事業も2～3年もすれば落ち着く。その人たちが戻って来られるような環境づくりができれば非常にいいのではないか。

(委員) 地震後、バスの利用は減っているが、鉄道の利用は増えている。その辺にヒントがあるのではないか。

(副会長) 国の制度が使いにくいということだが、現場の意見が一番重要であり、熊本地震の特有の事情もあるので、申し入れる必要があるのではないか。

(会長) 協議会としてもこの問題をどうしていくか、緊急の課題でもある。

(事務局) 形成計画、立地適正化計画において、国には我々の意見を取り入れてもらっているし、今の制度の中でどのように解決していくのかを含めて、一緒に検討していただいているところ。

### ③コミュニティ交通等への対応について

・事務局より「資料3：コミュニティ交通等への対応について」を説明

(委員) 地域の意見として、区役所が遠くなった、不便になったとの声がある。採算を考えると難しいと思うが、今後の取り組みの中で、「区役所等と連携し潜在的なニーズを把握し」とあるが、どのような形で、いつアンケートをするのか。

(事務局) 熊本市では、今年度から地域担当職員を配置して、地域の中に入っていきことにしていて、その中で地域の意見を聞きながらニーズを把握したい。

(委員) 地域担当職員がいても、このアンケートばかりするわけではない。公共交通の部署として、地域のニーズをどう把握していくかを具体的にしないと、おそらく進んでいかなないと思う。

(会長) この点は、コミュニティ交通部会で検討していくことになる。

(委員) バス事業者の努力は限界ではないかと思う。全国的にバスの利用が減っていて赤字に陥っているが、ニーズの把握の事例として、十勝バスの事例がある。なぜバスに乗らないかの理由の第1位が、乗り方が分からないということだった。このような細かな調査を行ってはどうか。十勝バスの事例は参考になると思う。

(会長) 各バス事業者も地域別に乗り方教室など努力されていると聞いている。

(委員) コミュニティ交通を見ると乗る人は少ないが、地域経済が回る仕組みとして、地域通貨があって、自分が使ったことで、自分に返ってくることを考えてはどうか。まだ皆は自分のこととして公共交通の必要を感じていないが、区役所と連携して、使った役に立つというような考えが広がっていけば、コミュニティ交通を使うという具合になるのではないか。

(会長) 熊本市内だけでバス路線網は収まっていないので、周辺の自治体にも影響してくる。その調整役として熊本県や運輸支局の協力をお願いしたい。

### (4) その他

・事務局より「資料4：平成29年度熊本市公共交通協議会スケジュール(案)」を説明

(会長) 何か意見はないか。スケジュールがタイトだし、各部会の役割は重い。→ 意見なし

(会長) 以上で本日の議事はすべて終了した。皆様、ありがとうございました。